普及だより

たむら

No. 219　2018.9

編集・発行
福島県県中農林事務所田村農業普及所
田村郡三春町大字熊耳字下荒井176-5
ＴＥＬ（0247）62-3113㈹
ＦＡＸ（0247）62-6069
ホームページ
田村農業普及所　検索

ごあいさつ（田村農業普及所長　菅野　雅敏）

田村地方の皆様には、酷暑の中、春から園芸品目の高値傾向などもあり、昨年にも増して精力的に営農に励まれており、笑顔で収穫の秋を迎えることができるものと思います。

県では、担い手の確保・育成、技術支援等のほか、生産者の努力と誇りの詰まった県産農林水産物の消費拡大と販路開拓に努めるため、「ふくしまプライド。フードアクション宣言」を行い、その魅力を国内外に発信しています。

今年度前半の普及所の活動成果内容等を「普及だより」として作成しましたので、御高覧ください。

今後とも、いろいろ御相談ください。よろしくお願いします。

両親の背中を追いかけ、姉妹で就農！　―新規就農者のご紹介―

◆田村市：株式会社 Green For Table（白岩幸恵氏・富塚あゆみ氏：就農１年目）

白岩さん・富塚さん姉妹は、平成29年までそれぞれ別な仕事をしておりましたが、ミニトマト栽培を営むご両親の背中を追いかけ、平成30年に就農しました。

経営品目は、ミニトマトとふきのとうです。

就農と同時に法人化を果たし、営農一年目の今年は手探り状態の中、基盤づくり・栽培管理技術の習得に向け、日々奮闘しています。

写真：右　白岩幸恵氏
　　左　富塚あゆみ氏

写真：法人のミニトマトハウス

就農にあたっては、市・ＪＡ・普及所が連携した支援体制の中で、就農相談・準備を進めてきており、次年度以降は、事業等の活用により規模拡大を進め、さらなる経営発展を目指します。

◆園芸品目で新規就農しましょう！

田村地域は、県内一の生産量を誇るピーマンをはじめ、夏秋野菜や花きなど園芸品目の産地です。

トマト、ミニトマト等、ハウスかん水装置などを設置する品目もありますが、ピーマンやいんげん、なす等の露地栽培であれば、初期投資も少なく比較的始めやすい品目です。

また、白岩さん・富塚さんのように、園芸品目での女性就農者も年々増えています。

農業を始めたい方、新規作付を希望する方は、ＪＡや普及所までご相談ください。

新しい技術をご紹介します！

▶野菜◀　近年の暑さ対策に！　―ソーラー自動かん水システム―

◆ピーマン、ナス、さやいんげん、きゅうりで導入

田村地域では、平成28年度より、４品目でソーラー自動かん水システムが導入されています。

ソーラー自動かん水システムとは、太陽の日射量に応じて、畑に自動的にかん水することができるシステムのことで、かん水作業の省力化や収穫量の増加といった効果が確認されています。

現在のシステム導入実績は、導入面積507ａ、導入件数52件（平成30年７月時点）となっており、県内１位の普及状況です。

写真：ソーラー自動かん水装置

◆増収＋増益＝１作でほぼコスト回収可能！

普及所では、三春町のピーマン畑に実証ほを設置し、かん水システムの経済効果等を検証していますが、平成28年度は、収穫量が14％増加し、26万円の売上増加、さらに平成29年度は、かん水同時施肥を行った結果、収穫量が23％増加し、42万円の売上増加（いずれも過去５年間の平均単収・単価で計算）という結果がでており、いずれも導入費用約30万円に対し、１作で概ね回収可能となります。是非、導入をご検討ください。

◆興味のある方は、普及所まで！

近年は、春先・盛夏期の高温乾燥によって、草勢の低下、生理障害果の発生による減収、品質低下などの問題があります。

定期的なかん水が労力的に困難な方には、非常に有効なシステムであり、普及所としても、関係機関・団体と連携し、推進していますので、興味のある方は、普及所までお問い合わせ下さい。

▶水稲◀　取組が拡大中です！　―高密度播種栽培―

◆省力化、コスト削減を実現

管内では、省力・低コスト化を目的とした、水稲の高密度播種栽培の取組が拡大しています。

高密度播種栽培は、種籾の播種量を慣行より増やし、移植時の掻き取り量を減らすことで、面積当たりの育苗箱使用枚数を慣行より減らすことができる技術です。これにより、育苗スペースや資材費の大幅な削減、苗運搬に係る省力が期待できます。

昨年の管内の取組事例では、播種量300ｇ/箱、育苗箱約７枚/10ａで、慣行同等の収量が得られています。

◆農機具店やメーカーへ、お問い合わせください

乾籾200ｇ以上の播種量の場合は、播種機や田植機の部品取替等が必要となる場合があることから、農機具店やメーカーにお問い合わせの上取り組んでください。乾籾200ｇ程度であれば、設定の変更により対応可能な場合がありますので、機械の取扱説明書等を確認ください。

写真：高密度播種栽培の苗

◆一方で、注意点も

高密度播種の苗は、慣行に比べ苗の老化が早いため、計画的な播種や移植の計画が重要です。

移植後の苗の水没や還元障害（ガス害）による欠株、初期生育の遅延が生じやすいなどの欠点があるため、ほ場の選定、準備に留意する必要があります。

～実は、「その後の取組」のほうが重要です～

JGAPの取得はゴールではなく、スタート!!～JAトマト専門部会の挑戦～

◆専門部会でJGAP団体認証取得！

ＪＡ福島さくらたむら地区トマト専門部会は、本年３月29日にＪＧＡＰ団体認証（17農場）を取得しました。今回は17農場での認証となりましたが、将来は部会全体での認証取得を目指し、本年は新たに６農場が、認証取得を目指すこととなっています。

普及所も団体事務局（ＪＡ）と連携して、団体認証の維持拡大について支援活動をしています。

写真：ＪＡトマト専門部会の方々

◆FGAPに取り組んでみましょう！

県が認証するＦＧＡＰ（ふくしま県ＧＡＰ）でも、認証へ向け活動を始めている農業者の方もいます。

ＦＧＡＰに関心のある方は、まずは手順書（県ＨＰからダウンロード可能）を読んでみるところから始めてみましょう！普及所へご連絡ください、サポートします。

電気柵の設置が勝負の始まり！　～集落ぐるみの鳥獣被害防止対策～

写真：電気柵の設置の様子

◆何度も話し合いを重ねる

三春町青石集落では、長年、イノシシによりジャガイモや稲、飼料用トウモロコシなどへの食害・踏倒害や、畦畔等の掘り起こし被害を受けて、農業者の営農意欲の低下や耕作放棄地の増加が懸念されていました。

集落では、集落代表者を中心に何度も話し合いを重ね、平成28年度より集落ぐるみで、各種支援制度を活用した鳥獣被害防止対策に取り組みました。

◆電気柵の総延長は8,000m！

住民が全員で緩衝帯整備や耕作放棄地の解消など、集落における生息環境整備に取り組み、侵入防止柵（電気柵）の設置を進めました。

現在、水田や畑を含めた電気柵の総延長は、8,000m×２段となっています。

◆電気柵の設置後もきちんと管理！

集落では、電線下の定期的な下草管理が徹底されており、今年はイノシシによる農作物被害はなく、住民の皆さんからも大変好評を得ています。

ぜひ、皆さんの地域でも、集落ぐるみでの鳥獣被害防止対策を進めてみましょう！

新・県オリジナル品種「里山のつぶ」をつくりましょう！

◆「里山のつぶ」とは？

平成29年にデビューした県の新しい米のオリジナル品種で、出穂期が「ひとめぼれ」よりも３日早く田村地域に適しています。

病気や冷害に強く、耐倒伏性に優れており、大粒でしっかりとした食感が特徴です。収量性や耐倒伏性に優れることから「あきたこまち」からの代替や、出穂期・成熟期が早いことから、「ひとめぼれ」や「チヨニシキ」との作期分散が考えられます。

ＪＡと普及所が協力し、手厚くサポートしていきますので、「里山のつぶ」を生産してみましょう!!

写真：指導会の様子

◆「里山のつぶ」栽培の注意点

粒が大きく、割れ籾の発生が多いため、斑点米カメムシ類対策を徹底する必要があります。

収量の確保のため、極端な疎植栽培は避け、さらに、良食味米生産のため、多肥栽培は行わないようにしてください。

「田んぼアート」はご覧になりましたか？

写真：ファームパークいわえ

三春町には、遊休農地解消、農村環境の維持保全を図るため、「田んぼアート」に取り組んでいる地域（鷹巣・斉藤・ファームパークいわえ）があります。

詳しくは三春町のホームページをご覧ください。

田村農業普及所は、農業をとおして地域を元気づける活動を応援します。

平成30年度 田村農業普及所 所内体制

所　長　菅 野 雅 敏

次長兼地域農業推進課長　本 馬 昌 直

地域農業推進課

宮　島　　聡（花き）
佐久間　祐 樹（作物）
渡　邊　鋼　一（畜産）
鈴　木　将　稀（野菜特産）
安　田　康　二（作物）

経営支援課

課　長　根　本　高　志（野菜特産）
瀧 田　誠一郎（果樹）　高　村　博　之（畜産）
加 藤　磨璃子（野菜特産）　松　崎　拓　真（作物）
矢　吹　幸　子（野菜特産）

※下線は転入、新規採用者

「平成30年度福島県農薬危害防止運動」展開中！

農薬は、ラベルをよく読んで適正に使用。その日のうちに、必ず記帳しましょう！

リサイクル適正Ⓐこの印刷物は印刷用の紙にリサイクルできます。